

人と自然が共生する美しい環境  
つくる・はぐくむ・まもる

あなたの熱き造園力を求む

東京農業大学大学院造園学専攻

震災復興を目指し若き造園家達が1924年創学

MLA+DLA

Landscape Architecture,

Tokyo NODAI Graduate School

- 第1回 平成26年5月24日(土)15:00-16:00
- 第2回 平成26年6月14日(土)15:00-16:00
- 世田谷キャンパス・11号館 3F 第二製図室

造園学専攻の内容・教育体制・施設紹介など

I期試験:2015年7月19日(土) II期試験:2016年1月31日(土)

事前申込不要 問合せE-mail [zoen@nodai.ac.jp](mailto:zoen@nodai.ac.jp) TEL 03-5477-2422

入試説明会

NODAI ZOEEN 2014 90th

東京農業大学大学院

農学研究科

# 造園学専攻

博士前期課程・博士後期課程

快適な生活環境をつくる

生物学的な発想で都市，まち，地域をつくる

生活を支える庭園，公園，オープンスペースをつくる

*Landscape Architecture,*  
*Tokyo NODAI Graduate School*





## 1. 東京農業大学農学研究科で究める造園学

東京農業大学が目指す実学主義、実学教育のもとに、造園学の視点から、「人間と自然との共存」を学びます。快適な環境・空間を創造、保全し、秩序づけることのできる人材の育成を教育目標としています。

### 1) 90年の伝統ある造園学教育・研究を展開しています。

造園学は、社会を支える奥深い学術体系です。上原敬二博士が、東京高等造園学校を設立してから90年、その契機となった明治神宮の造営や、関東大震災後の復興技術や手法、考え方は、環境問題の解決や震災対策等、現代社会に強く求められています。

90年の歴史と伝統は、造園学専攻の貴重な財産です。伝統を活かしながら現代の社会問題に臨む造園学専門の高等教育機関として、世界的にも重要な役割を担っています。

### 2) 120年を超える実学主義の農学教育を生かします。

120年を超える歴史のある東京農業大学の教育・研究のポリシーは、「人物を畑にかえす」です。実学主義に基づき、実社会で活躍できる人物の養成を目指します。

### 3) 幅広い学問体系で多様な空間を対象にしています。

造園学の対象空間は身近な生活空間から地球環境問題まで展開します。住宅の庭から公園、まちづくり、地域づくりまでを、ソフト・ハードの両面から探究します。

### 4) 国際化をさらに推し進めます。

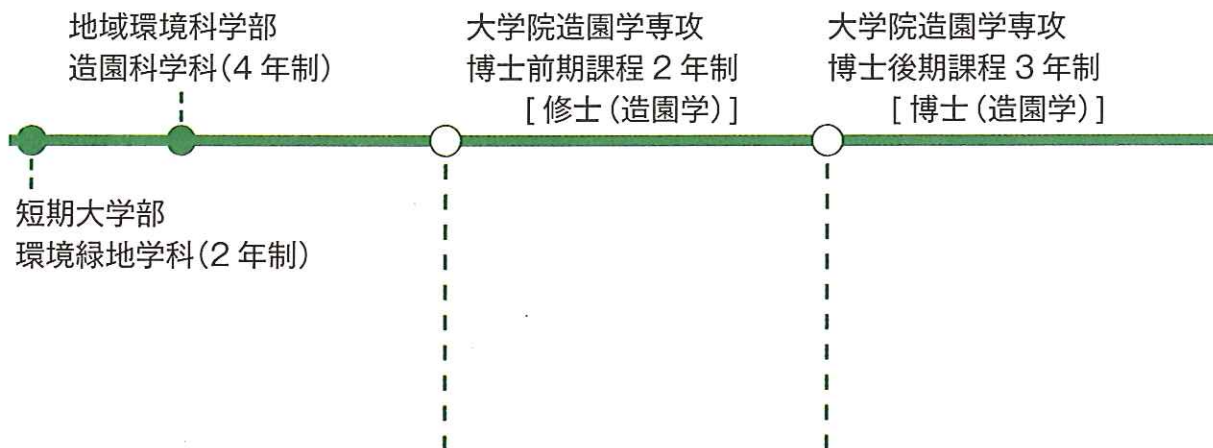
アジアの自然環境におかれる日本だからこそその技術・伝統があります。人と自然との共生を、このアジアの自然環境から目指します。アジア、そして欧米、豪州各国との交流をさらに広めつつ世界をみつめます。

2013年12月には北京林業大学園林学院と学術協定を結びました。また東京農業大学と締結した多くの海外協定校とも、交流を深めています。



## 2. 博士前期課程と博士後期課程

東京農業大学大学院造園学専攻は、造園学の修士号[修士(造園学)], 博士号[博士(造園学)]を取得できる日本唯一の大学です。

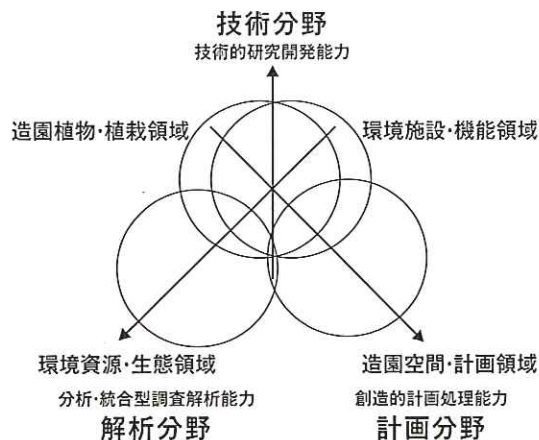


### 博士前期課程

都市や自然地域において快適環境を具体化します。造園・景観計画, 緑地・環境デザイン, 造園植物資源に関する, 確かな学理, 知識と技術, 研究・応用デザイン能力の習得を目指します。

### 博士後期課程

造園植物・植栽, 環境施設・機能, 環境資源・生態, 造園空間・計画に関する, 確かな学理, 高度な知識と技術, 研究手法と応用能力の習得を目指します。





### 3. 研究と教育

造園学専攻では、①庭園・公園などの造園空間に加え、②都市から自然地域までの快適環境を実現するための計画・デザイン思想と技術力、③環境を構成する植物をはじめとした生物資源や景観計画・建設技術に関する知識と応用能力を高めます。教育研究活動を通じて、豊かな地域社会と社会資本の形成に貢献する人材の養成を目的とします。

**博士前期課程：**造園・景観計画学，緑地・環境デザイン学，造園植物資源学の3つの専修分野で研究教育を行っています。

**造園・景観計画学専修：**地域計画やまちづくりに深く関わる景観計画，景観政策の理解と応用展開を目標とする。地域における人と環境・景観との関わりについて原論的視点あるいは，計画論的視点から論究する。

**緑地・環境デザイン学専修：**身の回りの空間から国土空間にわたる多様な空間を対象とする。環境，文化，景観との関わりのもと，持続可能な環境を計画的に保全し創造するため，自然と共生するランドスケープデザインの理論と技術について計画・設計，エンジニアリングの視点から論究する。

**造園植物資源学専修：**都市緑化や造園植栽，植生の再生復元・保全・利用，森づくり，さらには植栽や植生の管理・診断に資する基礎的知見を，内外で展開している実際の手法や事業を題材にして究明する。造園植物資源の分類特性，栽培生理，各種環境への適応戦略から応用植物生態学まで論究し、応用する。

### 4. カリキュラム

#### 博士前期課程

造園・景観計画学特論・演習  
緑地・環境デザイン学特論・演習  
造園植物資源学特論・演習  
造園史特論  
観光計画特論  
環境経済・造園企業特論  
ランドスケープマネジメント特論  
自然再生特論  
ランドスケープデザイン特論  
造園建設特論  
造園施設材料学特論

庭園特論  
日本庭園技術特論  
造園芸術特論  
造園植栽特論  
都市緑化技術特論  
樹芸特論  
草芸特論  
造園学特論 I, II  
造園学特論実験・演習  
知的財産管理法／インターンシップ  
[修士論文]

#### 博士後期課程

造園学特別研究  
[博士論文]

## 5. 最近の主な研究テーマ

### 博士論文 [博士後期課程]

釜山市における居住環境としての斜面地の緑地の評価に関する研究  
日韓の農村地域における文化的景観としての棚田景観の保全に関する比較研究  
中国・瀋陽市におけるランドスケープ遺産の保全と活用に関する研究  
日本におけるのり面緑化の起源と変遷に関する技術史的研究

### 修士論文 [博士前期課程]

親子農園での体験が親の食意識に与える効果に関する研究  
多摩丘陵地域における公園・緑地の空間特性と市民による管理運営組織の機能についての研究  
緑の市民活動団体の活動成熟要因に関する研究  
早咲き性サクラの作出とその親種鑑定法  
多摩川流域における建築物のボリューム及びプロポーションが沿川景観に与える影響  
見沼田圃さいたま新都心東エリアにおける地域住民の景観認識と評価構造の研究  
冬季における屋上緑化の保温効果の検証に関する実験的研究  
陶磁器産地の景観構造と特性に関する研究  
パラグアイ国・ピラポにおける日本人移住地の環境特性に関する研究  
中国における公園管理運営競争評価制度に関する研究  
総合設計制度を用いた開発の空間構成と緑地の連続性に関する研究  
オーストラリアにおける日本庭園の受容史  
石川県輪島市大沢町・上大沢町における地名からみる地域居住者の空間意識に関する研究  
まちづくりや環境整備における主体間の連携構造分析手法に関する研究  
杉村楚人冠邸白馬城における庭に関する研究  
都市近郊緑地における緑地管理団体の活動の継続性に関する研究  
芳香性植物の香りの強度と人の心理・生理反応から見た適正な植栽位置についての研究  
秋葉原の街路における滞留行動と空間構成に関する研究  
*Zoysia* 属芝草の匍匐茎形態特性及び糖と K<sup>+</sup> 含量からみた低温環境適応について  
高台寺庭園の景観的特徴と空間構成についての調査研究  
渋沢栄一の造営した暖依村荘庭園の特徴と近代庭園史上における位置づけ  
超高層集合住宅居住者の外部環境における交流に関する研究  
ギリシャにおける日本庭園作庭に関する基礎的研究  
公園のイベント広場における仮設工作物の配置に関する研究  
静岡県榛原郡川根本町元藤川における茶業空間の変遷  
現代造園作品の時間的経過による景観変化に関する研究  
主要緑化用芝草による放射線物質ファイトレメディエーション能の解明に関する実験的研究  
中国主要都市における街路樹事情ならびにその評価と今後の方途について  
広域避難において地形の起伏を考慮する必要性  
都営住宅団地における住民による園芸区画設定の有効性  
参加型公園デザインにおける設計者の役割についての研究



## 6. スタッフ

院生相互、院生と教員、そして海外・国内からの研究者との間に、分野を超えての日常的なコミュニケーションが盛んです。世界都市・東京、環境都市・世田谷にキャンパスを置く農大造園学専攻の地の利を生かし、研究テーマや進路選択の契機となる出会いが、日常的な学生生活に満たされています。

また自然科学分野から社会(人文)科学分野、芸術分野まで、教育・研究に励む常勤の教員と、造園界の第一線で活躍している非常勤の教授陣がそろっています。

### [教員の研究]

- 麻生 恵：自然風景地の計画・管理・運営
- 金子 忠一：公園緑地の効用・計画・管理運営
- 小林 章：造園施設材料と造園建設技術
- 鈴木貢次郎：植物の保全と伝統的な植物利用からみたまちや地域づくり
- 鈴木 誠：造園デザイン史と日本庭園のグローバリゼーション
- 高橋 新平：芝草と造園地被植物の生育特性と利用
- 濱野 周泰：樹木の応用分類を基礎とした分布と生育環境要因
- 服部 勉：日本庭園の空間構成とその意味
- 山崎 元也：感性評価手法を用いた道路景観設計
- 阿部 伸太：都市地域の公園、住宅地、再開発地の緑の計画・設計
- 荒井 歩：農業景観および文化的景観の構造解明
- 國井 洋一：空間情報技術による造園空間の構築
- 水庭千鶴子：植物と環境の相互作用

### 非常勤講師

- 尼崎 博正 (作庭家, 京都造形芸術大学教授)
- 高塚 敏 (株式会社 地域環境計画研究所代表)
- 戸田 芳樹 (株式会社 戸田芳樹風景計画代表取締役)
- 中嶋 猛夫 (環境デザイナー, 女子美術大学特任教授)
- 蓑茂寿太郎 (一般財団法人 公園財団理事長)

## 7. 大学院修了後の進路

多くの卒業生（修了生）がいる東京農業大学造園学専攻ならではのネットワークを活かし、就職指導・活動を行っています。

都道府県，市町村の公務員としてまちづくりや地域づくり，公園行政等で活躍しています。企業では，造園業（調査・設計・施工）の他，建設業（土木・設備・住宅等），農業（園芸），サービス業，観光業等にも就職しています。また教員免許（理科及び農業）を取得し教員としても活躍しています。

留学生は，母国に帰り，本学で学んだ造園力で，教育・啓発，起業に励んだり，日本でも活躍しています。

### [主な就職先]

公務員（茅ヶ崎市，福岡県，福島県，千葉市）・都市再生機構（UR 都市機構）・大学教員・東京ランドスケープ研究所・フィールドフォー・アーバンデザインコンサルタント・理研グリーン・箱根植木・ポラス（ポラスグループ）・日産クリエイティブサービス等



## 8. 大学院での生活と学費

大学院での学習・研究をより充実させるために，次のような制度を利用できます。

- 1) 東京農業大学からの進学の場合，入学金が免除されます。（第二種奨学生）
- 2) 原則として，第I期募集入学試験の合格者の中から，授業料の2分の1および整備拡充費の2分の1で，その相当額を免除されます。（数名，第一種奨学生）  
\* 上記第一種，二種奨学生の取得によって国公立大学水準の学費負担になります。
- 3) 日本学生支援機構大学院奨学金，日本学術振興会特別研究員研究奨励金，外国人留学生奨学生制度など，多くの奨学金制度があります。
- 4) TA（ティーチングアシスタント）制度，その他プロジェクト研究への参加などにより研究費を補助しています。